

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター細江 担当圏域レベル）開催報告書	
1 開催日時	令和 6 年 10 月 28 日 （ 月 ） 10 時 00 分 ～ 11 時 45 分
2 開催場所	みをつくし文化センター 大研修室
3 参加者	29名 委員12名（細江地区4名、引佐地区4名、三ヶ日地区3名、事業所1名）、関係機関17名（浜松市高齢者福祉課：1名、浜名福祉事業所(北)長寿保険担当：1名、コミュニティ担当：2名、地域包括支援センター細江：3名、災害ボランティアコーディネーター連絡会：3名、市社協北地区センター：7名）
4 協議の内容	1. 開会 2. 挨拶 生活支援体制づくり協議体 会長 今年から2年かけて防災関係についてやる。1年目は勉強して、2年目は具体的なものを3地区それぞれで作って活用したい。浜松市のハザードマップもあるが、もう少し地域で具体的な情報を入れた防災マップを作って地域住民に配布できるといい。そのためには自治会の協力が不可欠。今日はふじのくに防災士でもある副会長の話がある。避難所や情報収集について学んで、協議して、これからのマップ作りの第1歩にしよう。 3. 協議内容 ①令和6年度 第1回協議体会議の振り返り * 議事録参照 ②浜松市社協 CSW（コミュニティソーシャルワーカー）から 包括主催の地域ケア会議「防災について」の報告と情報共有。地域住民は自力での避難行動・自助・近所の助け合いが大切だが、要支援・要介護者や潜在的な避難行動要支援者については公助・共助に加えて、縦割り・福祉の枠・支え手・受け手の関係を超えた地域共生力が求められている。有事の際に最も被害を受ける社会的弱者にどういう支援ができるか、この協議体で話し合うことも意義があるのではないか。 ③令和6年度 テーマ「災害時の連携について」 まず自分が住む地域の特性や危険を知って、備えよう I) 情報共有 ①ふじのくに防災士（当協議体副会長・I地区自治会連合会会長）のお話 「静岡県防災アプリ」のインストールと設定、活用方法を紹介。 平時から各種ハザードマップや緊急避難場所候補地が分かり、河川の監視カメラ映像と水位・雨量データを確認することによってほぼリアルタイムで情報が得られる。居住場所や現在地、時間帯、避難する人々の状況によってリスクや避難タイミングが異なるため、緊急時には個々に判断が必要。例えば、河川から離れて

いれば垂直避難でも良いが、河川に隣接する「家屋倒壊と氾濫想定区域」指定地や「土砂災害の危険度」が高い場合は家ごと流される恐れがあり避難指示が出るより早く避難が必要な場合もある。

②浜松市社協 N から

提供資料の補足説明。能登半島地震で行政からの依頼なしで多数の福祉避難所が開設されたコラムや、避難所・緊急避難場所・福祉避難所の違い、避難所の収容人数等を紹介。NHK 防災の「防災・復興 明日を守るナビ」という番組から、備蓄や地域防災計画について情報提供。

Ⅱ) グループワーク（身近な防災マップ作り） ～避難所の確認・住民だからこそ知っている情報も地図に落とし込んでみよう

引佐・細江・三ヶ日の3地区に、模造紙大に拡大した浸水域ハザードマップ・市発行のハザードマップ数種・避難所と緊急避難場所一覧・各色シールを配布

- 1) 避難所に緑シール、緊急避難場所に青シール貼付
- 2) 地域の中の危険な場所を話し合っ赤シール貼付
- 3) その他に防災に関する意見交換（自治会で独自に避難場所として契約している施設がある、消防署が移転予定、自宅が安全なら避難所に行く必要ない、川のすぐ近くや土砂災害が起こりそうな所の住民は避難指示レベル3で動き出した方がいい、浸水しそうな平屋に住む人の垂直避難はどうしたらいいか、非常時に自治会は何ができるのか、七夕豪雨の経験談、などが話題に上がっていた）

Ⅲ) グループワークの発表

細江：避難所と緊急避難場所の違いを確認。状況によって避難所・垂直避難・在宅避難の判断が必要。高齢者・要支援者避難に課題がある。いざという時のために事前の訓練・シミュレーションが大事。

引佐：南部の平地は水害・浸水、北部の山間地は土砂災害の危険に備えなければいけない。移住地域・住居・周辺の様子をよく把握して対策すべき。

引佐インター近くの消防署（引佐出張所）が近々移転する情報がある。

三ヶ日：避難所と緊急避難場所はどう違うか地域住民に知らせることも大事。自宅の周りや地域の特徴を住民1人1人が自分の問題として知って自分の命を守ることが第1歩で、それから近所や共助へ発展していくのでは。

Ⅳ) 今後の防災マップ作りについて

地区ごとでのマップ作りの体験を通して、自宅回りや地域の特性・危険を把握でき、自助・共助・公助それぞれの必要性も分かってきた。市のハザードマップは拡大して自宅回り等を印刷可能。アプリで随時確認もできる。これから自治会・クラブ・家族などでも、いろいろな時間帯や天候などを想定して更に話し合ってみてほしい。防災意識や地域資源が明確になり、より身近な防災マップ作りに活かせる。

5. 第3回開催日程（案）について

令和7年1月下旬（調整中） 10:00～ みをつくし文化センター 大研修室

* 事前打合せ(正副会長)；令和6年12月23日（金）10:00～

北地区センターデイルーム

6. 閉会 生活支援体制づくり協議体 副会長

大変いい勉強になった。防災アプリが大変素晴らしいと分かったし、自分はあるなに危険なところに住んでいるのかと資料や話し合いで実感した。今日の学習を3回目、来年度に活かしていきたい。

5 今後の見通し・
必要な対応

・2年計画「災害時の連携について」の一環として、まず地域の特性や危険を把握し、自分事として身近な防災マップの作成を目指す。その中で、自助のほかに共助・公助が大いに必要であることを共有し、地域で出来ることを考え、自治会・各種団体・施設等との連携を図る。